

短期大学幼児教育学科における美術教育のあり方を探る

(実践例)

県立新潟女子短期大学 戸潤幸夫

短期大学幼児教育学科における美術教育の基本的考え

別紙(資料5) 図画工作・美術科における基礎基本を考慮し、造形の自立の段階(資料6)をふまえその芽生えを育む保育者となるため

幼児は日々五感を働かせ、感じたことを創造性豊かに発想し、ものをつくったり描いたりします。保育者が一人一人の個性を大切にしながら支援するためには、保育者自身の造形体験を豊富にし、ものを創造する喜びを味わうことが最も大切であると考えます。

上記のことを考慮し、次のような講義概要の内容をカリキュラム化しています。

保育内容の研究(遊びと造形) 2単位(選択)

授業目標

豊かな感性、心情を育むためには、遊びの中で想像性豊にイメージを広げ、それを自分なりに伸び伸びと表現することや、自分自身でつくったものにより思いっきり遊ぶ活動なども大切と思われる。

遊びと造形表現との関わり、その活動の援助の在り方について実践を通して学ぶ。

授業内容

以下の内容の制作・活動を通して、遊びと造形活動の支援の在り方や教材開発の仕方を研究する。

- 1 パクパク人形を作って遊ぶ
- 2 カラーポリ袋による気球づくり遊び
- 3 パスターネックレスを作って身につけよう
- 4 ボードを作って遊ぼう
- 5 オリジナル紙飛行機を作って遊ぼう
- 6 砂粘土で遊ぶ
- 7 ポリ袋衣装によるファッションショー
- 8 飛び出しカードを作って送ろう
- 9 ポンポンステンシル遊び
- 10 スタンプで写して遊ぼう
- 11 紙コップ人形を作って遊ぼう

図画工作 2単位(必修)

授業目標

子ども達の心を育て、造形表現の可能性を引き出し、伸ばすことのできる保育者になるため、造形表現の基礎的技能・知識を身につけ、自ら創作を通して感性を磨く。

授業内容

いろいろな技法、素材、用具の扱いが豊富に体験できるように、幅広い内容を学ぶ。また、子ども達への支援の仕方や励ましの方法を場面ごとに考える。

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1 スクラッチ技法による表現 | 2 研修旅行記制作 |
| 3 線香画による表現 | 4 吹き出し技法による表現 |
| 5 ざらざら画面に描く | 6 木片による立体表現 |
| 7 自転車の思い出（絵画表現） | |
| 8 モダンテクニック技法によるコラージュ絵画 | |
| 9 アルミ缶による立体表現 | 10 紙版画による表現 |

デザイン1単位（選択）

授業目標

心豊かに潤いある生活を願って、人は身の回りのものを美しく飾ったり、使いやすい形を追求したり、分かりやすく相手に伝えるためいろいろな工夫を自分なりにします。幼児は、知らず知らずにその芽生えが育ち始めています。保育者として、デザインの基礎的技能・知識を身につけ、生活環境を美的に整える感性を磨きます。

授業内容 1 写真を活用した色面構成 2 オリジナルカレンダーづくり

絵画制作1単位（選択）

授業目標

幼児に楽しく、自由に伸び伸びとした絵画制作活動を保障するためには、保育者自身が感動体験を豊富にし、いろいろな絵画表現を経験し材料や用具の特徴や特性を理解し、その生かし方や美しさに気づくことが大切である。また、制作を通して培われた感性が子ども達個々の良さを発見し励ますことができる能力を培いたい。

- 授業内容 1 いろいろな描画材料による表現
鉛筆・色鉛筆・クレパス・パステル・水彩用具
観察画 想像を基にした絵 抽象画表現
静物画 人物画 風景画
- 2 点描表現
- 3 ニューアートグラス技法による表現

幼児教育総合演習F 4単位（選択必修）

授業目標

五感を働かせ、そこから興味や関心が生じたことについて、自分なりに創意工夫しながら自己表現したり、問題解決をすることは幼児にとって遊びの中などで素朴ながらも自然に日常的に行われている行為と思われる。これが生きる力の芽生えであり、成長するに従って質の高いものが要求されるものと思われる。保育者自身が、主体性、創造力、発想力、構想力、企画力、協働性、計画性等を磨くことにより、子ども達の柔軟な考えを保障すると共に心豊かな園生活が送れるものである。受講者のこれまでの造形表現活動の体験を生かし、総合的にものごとを判断し、問題解決する力と感性を培いたい。

- 授業内容 1 美術館での鑑賞
- 2 様々な材料による教材開発
- 3 油彩画、アクリル画等の自由制作
- 4 私にとっての理想の幼稚園を考える（現地調査から模型づくり発表）グループ討議、発想法、問題解決過程による学び

美術（教養）2単位（選択）

授業目標

美しいものや崇高なものに感動する豊かな心と、日々の生活の中で楽しく創造的に生きる力を育成するため、古今東西の美術文化に触れ鑑賞の仕方や、自分なりの楽しみ方を学ぶと共に美のある生活について考える。

授業内容

西洋と東洋の古代から現代に至る大まかな美術の流れをビデオ・DVD等で鑑賞し、それぞれの時代の作品の特徴と美しさについて講義する。また、実際に制作をしながらその表現のもつよさを知る。

- 1 西洋美術の流れ
- 2 古典技法を体感する（フレスコ画の模写）
- 3 日本の美術の流れ
- 4 美のある生活とは（絵手紙制作・ネイルアート）
- 5 美術館鑑賞
- 6 現代美術を体感する（BOXアート制作）

私が考える「おすすめ題材」

1 「ラミネータによる旅行記」等の制作（図1参照）

B4（八つ切り）の大きさの画用紙裏表に、凝縮ポートフォリオとして研修旅行の学習成果や思い出をまとめる。

- ・3～4時間程度で完成するので、集中して作業ができる。
- ・ここでの学習が、他の場面でも活用できる。
- ・ラミネータ効果で作品が美しく仕上がるので、自己有能感が育つ。

2 モダンテクニックを活用したコラージュ「絵本作家エリック・カールに挑戦」

モダンテクニック技法でつくったいろんな模様紙を、描いた絵の対象物の部分ごとに、形を合わせて切り、糊で貼って完成させる。

（資料2学習カードを参照）

- ・エリック・カールの「はらぺこあおむし」の絵本は、誰もが子どもころ親しみがあり興味をもちやすい。
- ・モダンテクニックによる模様づくりは、グループで活動させることにより楽しくリラックスして制作ができる。
- ・模様紙を絵のどの部分に生かすか、色彩面、材質感、全体の調和を考慮し決定していくことは、五感を刺激し、発想力・構想力を育むのに適している。
- ・この題材は、誰もがそれなりの作品となるので完成の成就感が味わいやすいと共に、グループ制作した模様紙を友達がどのように生かしているのかも知ることができ他の人の作品にも興味を持つようになる。

3 古典画の学習としてのコルク板に描く模写作品（図5参照）

大まかな西洋美術史を理解し、その良さを感じさせると共に興味をもたせるために視覚デザイン研究所編「巨匠に教わる絵画の見かた」

「名画に教わる名画の見かた」

上記の著書は、年表も大変簡潔で分かりやすかったり、作品・作家のエピソードが興味深く紹介されていたり、作品が誕生した背景が理解しやすい。これらの抜粋を印刷し、古典画について学習する。そこでの学びが感覚を通して身に付かせるため、好きな古典画の中から1点作品を選び模写する。カレンダーや美術館等で販売している絵はがき、古本屋等で販売している安価な画集などを日頃から収集すると良い。

- 1 30cm角のコルク板を100円均一ショップで購入する。
- 2 テンペラ画やフレスコ画の質感を体感させるため、コルク板にジェツソ下地を施し、画面が漆喰壁のような状態をつくる。
- 3 かたちよりも色彩表現に特に力を注ぎたいため、形は自分で選択した複製画の上に、トレッシングペーパーを重ねて写し、それをカーボン紙を使いコルクボードに転写する。
- 4 アクリルガッシュで着色し完成させる。色遣い、タッチの工夫、明暗表現等の工夫。また、その作家の特徴などを模写により理解する。
- 5 模写した作家について、画集などでさらに詳しく調べレポートをまとめる。

4 ざらざら絵 (図2参照)

ベニヤに砂を貼り付け、土壁をつくることにより壁画のような画肌の作品づくり

- ① 八つ切り程度のベニヤ板に、ボンドを付けその上に砂をまぶすように全面につける。
- ② ボンドが乾燥後、ジェツソを塗る。下地づくり完成
- ③ アクリルガッシュ・クレヨン等でざらざらの質感を生かした作品づくりをさせる。
- ④ ラスコの壁画やポンペイの壁画、絹谷幸二のような作風でも良い

5 動物のイラスト画 (資料1 学習カードを参照)

- ・日頃かわいがっている動物を、愛情込めてイラスト画として形にすることは制作意欲をかき立てると共に動物愛護の心が育まれる。
- ・パステルと色鉛筆の併用技法を身につけることができる。
- ・誰もが一定の質の作品が完成するため、自己有能感が育まれる。

- 1 ペットの写真をA4の大きさにコピーする。
- 2 コピーした写真の上にトレッシングペーパーを重ね、トレス台で色鉛筆を使い形を写す。
- 3 トレッシングペーパーの裏に4Bの鉛筆で線の所にこするよう跡をつける。
- 4 ケント紙の上にトレッシングペーパーを重ね、色鉛筆で描いた線の上を黒色ボールペンで線をなぞる。
- 5 下書きが完成したケント紙の上から、コンテで図1のように大まかに色づけする。ティッシュでこするよう色づけする。
- 6 色鉛筆で毛並みの方向を考えながら、細部を描き完成する。

6 絵巻物 (図3参照)

八つ切りや四つ切り画用紙の形と違い、横長の構図、また右から左へと時間の流れを考えながら一枚の絵を構成し、日本の文化の素晴らしさに気づかせると共にアニメーションの原点とも言える表現方法を学ばせる。

これまで学んだ絵画表現の集大成的教材にふさわしいものである。



「ラミネータによる旅行記」 (図1)



ざらざら絵 (図2)



絵巻物 (図3)



ぐるぐる回すとどんな色 (図4)



コルク画 (図5)



ボックスアート (図6)



ポリ袋衣装 (図7)



お面 (図8)



パクパク紙袋人形 (図9)



ポリ袋気球で遊ぶ (図10)



松笠のミニクリスマスツリーと
フェルトのリース (図11)

幼児教育学科2年氏名_____

講義・演習内容 美のある生活Ⅲ「ペットのイラストを描こう！」

この教材の良さは

- ・日頃かわいがっている動物を、愛情込めてイラスト画として形にすることは制作意欲をかき立てると共に動物愛護の心が育まれる。
- ・パステルと色鉛筆の併用技法を身につけることができる。
- ・誰もが一定の質の作品が完成するため、自己有能感が育まれる。

制作順序

- 1 ペットの写真をA4の大きさにコピーする。
- 2 コピーした写真の上にトレッシングペーパーを重ね、トレス台で色鉛筆を使い形を写す。
- 3 トレッシングペーパーの裏に4Bの鉛筆で線の所にこするよう跡をつける。
- 4 ケント紙の上にトレッシングペーパーを重ね、色鉛筆で描いた線の上を黒色ボールペンで線をなぞる。
- 5 下書きが完成したケント紙の上から、コンテで図1のように大まかに色づけする。ティッシュでこするよう色づけする。
- 6 色鉛筆で毛並みの方向を考えながら、細部を描き完成する。



図1 パステルで大まかに彩色する



図2 色鉛筆で細部を描く

幼児教育学科1年氏名 _____

演習内容

いろんな技法を駆使した絵「絵本作家エリック・カール氏に挑戦」

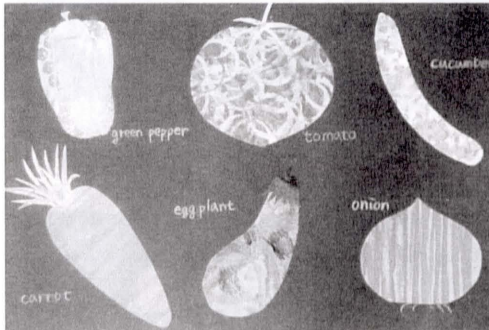
この教材の良さは

- ・模様紙をつくる過程で、遊びながらいろんな技法（モダンテクニック技法）が自然に身に付く。
- ・模様紙を協同で使用することにより、協働する大切さに気づく。
- ・どの模様紙をどの部分に配置しようか考える過程で、発想力・創造力・色彩感覚画肌（マチエル）に対する完成が身に付く。いろんな教材としての広がりがある。

制作順序 ① 模様つき紙の作成

6～10名程度のグループを作り、一人A4の大きさ3～5枚程度の模様つき紙をつくる。グループで20種類くらい紙ができると良い。

- ②どんな絵を描くか構想し、鉛筆で下書きする。
- ③どの部分に、どの模様つき紙を使うか計画を立てる。
- ④模様つき紙をパーツに合わせて切り、糊で貼る。
- ⑤クレヨン・絵の具・色鉛筆等で作品を整え完成する。



模様つき紙をつくるための用具

ローラー プチプチマット スポンジ 段ボール スタンプ（フィルムケース）モミくしゃにした紙 厚い布など

感想

12月7日デザイン演習記録カード

資料3

幼児教育学科1年氏名 _____

演習内容 「オリジナルカレンダーづくり」

演習課題のねらい

オリジナルカレンダーづくりは、月々の季節感をもののかたち・色彩・構成要素を駆使してデザインする学習である。これまでの、美術学習で培った総合力が必要となります。また、完成した作品は日常生活の中で生活に潤いを与えるものとなります。

そして、ここでの学習が幼稚園教諭となりクラス経営した際に、壁面制作のアイディアに大いに活用できるものとして期待ができます。

制作上の留意点

- ・ベースとなる紙はB4色画用紙とし、2ヶ月に1枚ずつとします。(縦横自由)
- ・表現方法は、色紙・和紙・模様紙などによる貼り絵や色鉛筆・マーカー等の手書きなど自由です。
- ・カレンダー使用可能な期間は、2006. 1. 1からか、4. 1から1年間

月・曜日・日・祝日家族の記念日等がはっきりするようにする。

なお、文字は印刷物を貼っても手書きしても良い。

1年間のデザインの雰囲気が統一感のあるものが望ましい。

次の月がくるのが楽しみとなるような夢のあるデザインの工夫が大切。

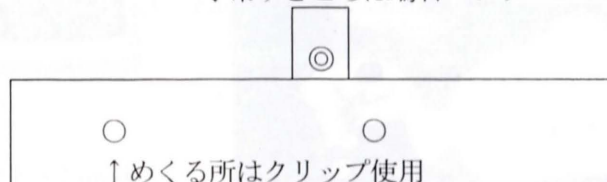
表紙は、作成しなくても良い。



季節感の感じられるデザイン、紙等の質感配色の工夫、かたちの大小や並べ方による構成の変化と統一感のあるデザイン。

台紙となる紙の色は、そこに貼るものの形と調和する色を選択する。

↓吊すところは鳩目パンチ



裏面にアイディアスケッチをする。

幼児教育学科2年氏名 _____

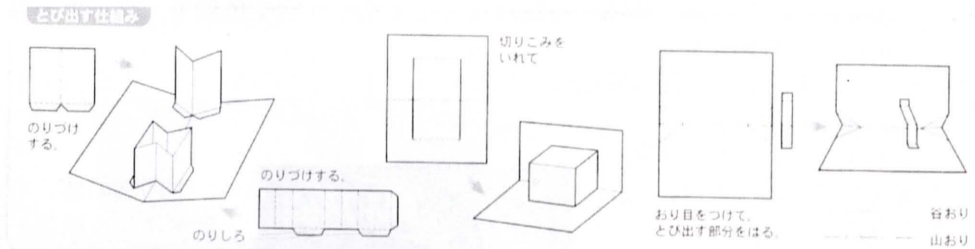
演習内容 「ポップアップメッセージをつくろう！」



題材のねらい

飛び出すメッセージカードは頂いた時、驚きと喜びが大きい。また、誕生日会、クリスマス会などいろんな場面で活用ができる。制作過程では、発想力と立体的思考を育むことができる。メッセージを受け取る相手を意識して創作することは、感謝の気持ちと伝達の方法を学ぶ機会ともなる。

- 制作順序 ① 下記の飛び出す仕組みを考え、アイデアスケッチをする。
 ② アイディアスケッチをもとに制作・加工する。

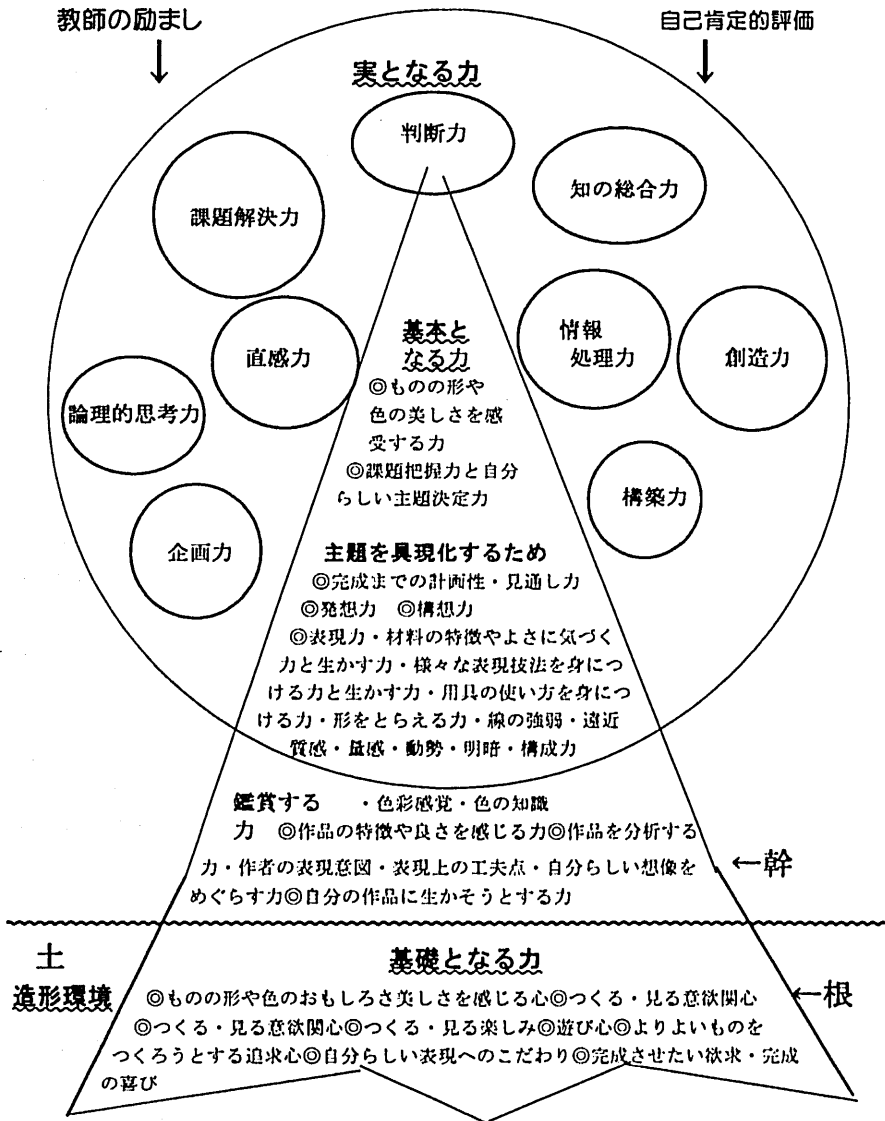


裏面にアイデアスケッチをする。



図工・美術で育てるべき基礎基本

資料 5



◎豊富な材料提供◎様々な技法体験を盛り込んだカリキュラム構成◎表現意欲をかりたてる掲示
◎自由な表現を可能とする場づくり(学習環境) ◎本物にふれる機会設定

造形活動における自立への道筋

資料 6

年齢	一般的な発達 の道筋	造形的発達の道筋	学習指導要領 のポイント	造形活動の自立への 支援
0 1 2 3	<p>言語の獲得の始まり</p> <p>1 語文→2 語文 →3 語文</p> <p>簡単なお話しができるようになる。</p>	<p>探索行動の奇跡と確認</p> <p>錯視期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージが豊になるのと言葉の発達とに対応している。 ・見立て行動が盛んになる。 <p>形と言葉との統合段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人（文化的人間）としての出立 ・図形と言葉と感情との統合による表現 ・視覚と結合した様々な物語の相ぼう世界を出現 ・具象的表現の幕開け <p>注釈期</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・探索行動期にふさわしい成長にそった支援が大切である。思いのままに自由に。 ・たくさんの紙を準備したり、体が自由に動かせる環境を整える。 ・子どものつぎやきに耳を傾けながら、お話ししながら表現させるなどの支援をする。
4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思うとおりに身体がコントロールできるようになる。 ・自分の欲求を自分で表現しようとする。 ・言葉の意味に興味をもつ。 ・子ども同士の会話ができるようになる。 ・自分に対して、自分と同じように考えるなどの認識をする。 ・おとぎ話に興味をもつ。 ・ごっこ遊びなど身近な社会的行動を模倣する。 ・役割が分化し始める。 	<p>図式模索と想像的叙述段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動は内面注釈的活動から、外側へ向かい意志表示、自己主張となる。 ・線的表現に加えて、面的表現が出現する。 ・色彩への興味が高まる。 ・繰り返し同じ形を反復的に描く。 ・形は羅列的で、並べがきれている。 ・想像世界を言葉の代わりに表す。 <p>前図式期</p>	<p>幼稚画 造形に関わる表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む。 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 ・色、形、手触りの違いに気づき、それを楽しむ。 ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 ・かいたり、つくったりすることを楽しみ遊びに使ったり、飾ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩教育に力点を置いて支援の工夫をする。 ・共感することばかけが、意欲的表現となる。 ・童話、民話など生活と言葉と感情のこもったイメージを蓄える支援に心がける。 ・自然などの身近な環境と十分に関わる中で美しいものを発見したり心動かす出来事に出会える場づくりの工夫をする。
7 8 9	<p>体験の量的蓄積の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心が、家庭から友達や学校に移行する。 ・子どもの社会化が増し、経験が豊かになる。 ・体験で得たものが、概念化となる。 ・知的好奇心が強化されてくる。 	<p>図式期</p> <p>図式の完成と叙述生活の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念的に外界の關係認知を進めている時期 ・現実と空想が分離し始める。 ・記録的欲求が強くなる。 ・給日記的に毎日の出来事を叙述していく。 ・冒険物語や王子・王女の物語を好む。未来における可能性としてのイメージをもつ。 ・画面の上下、基底線、展開図描法、レントゲン描法などの特徴が現れる。 	<p>小学校 1・2年 表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料をもとにして、楽しい造形活動をする。 ・遊ぶ。つなぐ、積むなど身体全体の感覚を働かせ、思いついたことを楽しく表す。 ・表したいことを進んで見つけ、好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しむ。 ・粘土、厚紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近な材料や扱いやすい用具を使い、手を働かせ表現する。 ・鑑賞 ・子ども同士の作品を鑑賞し、形や色、表し方のおもしろさに気づき、互いの気持ちを聞いたり、楽しく見ること。 <p>3・4年 表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験から発想したり、みんなで話し合い考えながら楽しく表す。 ・材料や場所の特徴をもとに、組み合わせる。切ってつなぐ、形を変えてつくるなどの工夫をし、新しい形をつくったり、発展させるなどの造形遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本物の実体験を多くさせる。 ・形だけでなく、色の概念化も生じる。豊富な経験の充実により概念色を多形となるよう支援が必要となる。 ・図式表現を保障しながら、バリエーションを広げることにより表現の幅が広がる。 ・自然素材・人工素材などいろいろな形、材質、硬い柔らかい、大小等の変化を考え、いろいろな感覚のものに触れられるように計画的に支援する。 ・生活科等と関連づけるなどして、自分の育てたい植物の成長記録をスケッチさせるなどの工夫をする。 ・体育館、学校園などダイナミックな活動ができるような造形遊びの活動の場を設ける。

年齢	一般的な発達 の道筋	造形的発達の道筋	学習指導要領 のポイント	造形活動の自立への 支援
10	<p>集団行動の段階 ・体験と想像の交錯世界から、現実の世界に突入</p> <p>↓</p> <p>・推理思考の高まり ↓ ・予測や計画性ももてる</p> <p>↓</p> <p>・時間の観念・空間観念の統一化が図られる</p> <p>↓</p> <p>・集団行動、自治的活動の芽生えが始まる。</p>	<p>前 ・視覚の独走を押さえ、身体で学ぶ段階</p> <p>写 ・視覚的意味での写真ではなく、考え方や行動が現実的になる。</p> <p>実 ・造形表現への自信を失う時期</p> <p>期 ・遠近、大小、部分と全体の関係把握ができる。</p> <p>・構図、量的比例も考慮できる。</p>	<p>・形や色、材料などを生かし、その組み合わせに興味をもち、美しさや用途を考慮し、計画するなどの工夫をする。</p> <p>・材料、用具の特性を生かすとともに、水彩絵の具、小刀、のこぎりなどの用具を駆使し、絵や立体に表す。</p> <p>鑑賞 ・互いの作品のよさや面白さ、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かり、関心をもって見る。</p> <p>5・6年 表現 ・想像力や創造的技術などを総合的に働かせて楽しく表現する。 ・つくるものと周囲の様子を考え合わせて造形遊びをする。 ・構成の美しさ、つくるものの用途などを考え、表し方を構想し計画して表現する。 ・自分が選んだ材料、糸のこぎりなどの特徴を生かし、表現に適した方法などを組み合わせながら表す。</p> <p>鑑賞 ・互いの作品、日本、諸外国の親しみある美術、暮らしの中の作品などを表現の意図や特徴に関心をもち鑑賞する。</p>	<p>・視覚型優位の指導に陥らないように支援する。</p> <p>・身体で集団を学び、身体で表現する活動を取り入れる。</p> <p>・いろいろな用途にふさわしいはさみ類、接着剤、木工具などの扱い方が身につけられるように、題材を題材を工夫する。</p> <p>・互いに刺激し合ったり、協力や話し合いながら、イメージが膨らむような造形遊びの工夫をする。</p> <p>・自分らしさや自分のよさが実感できるような、多様な広がりや生まれるような題材や学習内容を仕組む。</p> <p>・教室や廊下などに児童作品、名画の複製等いつでも作品と触れられる環境を整える。</p>
12	<p>仲間信頼関係段階 ・同性・同年齢の友達と仲間となる。</p> <p>↓</p> <p>・相互に支え合い、信頼関係を築く</p> <p>↓</p> <p>・思考力が高まり、現実を客観的、関係的に捉えるようになる。</p> <p>↓</p> <p>・抽象的なものの命題思考ができ、自覚や反省ができる。</p> <p>↓</p> <p>・精神的自立と葛藤の時期</p> <p>↓</p> <p>・自我意識の形成するための人生の岐路となる</p>	<p>写 ・個性の自覚と認め合いの段階</p> <p>実 ・個性の多様化現象と現実的思考の発達の高まり</p> <p>期 ・合理的思考が高まり、デザインへの興味がまぎらわす。</p> <p>・ロマンチズムが高まり、絵やイラストなど心理描写がみられる。</p>	<p>中学1年 表現 ・自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさを捉えスケッチする。</p> <p>・主題を発想し、全体と部分を考えて表す。</p> <p>・多様な表現方法を工夫し、絵やイラストレーション・彫刻など美しく生き生き表す。</p> <p>・用途や機能、使用する者の気持ち、材料から発想、構想し、つくり方、用具の生かし方の基礎を身につけ、つくる。</p> <p>・伝えたい内容を図や写真、ビデオコンピュータ等映像メディアを駆使し加工したり、交流したりする。</p> <p>鑑賞 ・作者の心情や意図・表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げながら鑑賞に親しむ。</p> <p>・伝統工芸、生活の中でデザインのなかから豊かな発想、工夫、美と機能性の調和、作品に託した願いに気づく。</p> <p>中学2・3年 表現 ・対象を深く見詰め感じ取ったことや心の世界をスケッチする。</p> <p>・単純化、省略、強調、構成、材料の組み合わせを工夫し表す。</p> <p>・他の作品の独特な表現形式などを参考に新たな表現を生み出そうとする。</p> <p>・漫画その他の映像メディアで表したい内容を表現する。</p> <p>・デザイン効果を考え、構成要素を簡潔にしたり、統合化したり、取り合わせを工夫しデザインする。</p> <p>・伝えたい内容を、分かりやすく美しく表現し、発表したり交流したりする。</p>	<p>・メタ認知能力を育む自己評価活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・互いの作品を鑑賞させ、一人一人の個性のよさを認め合い、自己の個性に気づかせる活動を多く持つ。</p> <p>・これまでの生活の中で五感を通して体験した美しさ、面白さ、既存の学習内容などから、総合的に考えながら創意工夫できる教材を工夫する。</p> <p>・手づくりのよさに気づき、自分の生活空間を美しく飾るなどの意識が育まれるデザイン・工芸作品を教材に取り入れる。</p> <p>・文字の工夫や図や写真、イラストを取り込んだパンフレットなどを、パソコンを活用し取り組ませる。</p> <p>・自分の生き方やこだわりが表現に生かせることができる教材に取り組ませる。</p> <p>・共同製作など友達と協力して、計画的に作業し、完成の喜びが共有できる教材を与える。</p> <p>・作家や美術館の学芸員のギャラリートークや美術館見学など本物のよさが実感できる鑑賞学習をする。</p> <p>・美術全集・展覧会の図録など自由にふれられる環境を整える。</p>
14				

年齢	一般的な発達 の道筋	造形的発達 の道筋	学習指導要領 のポイント	造形活動の自立への 支援
15 青年期	<p>精神的自立の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神的自立をする。 内部矛盾を抱えた存在である。 生きがい保障されるべき時期 様々な特性を見抜いて、信頼する。 詩や文学を受読し、芸術全般に強い関心をもつ。 	<p>芸術表現による自己確立の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現が社会化され、共有のものとなり、心の触れ合いがもてるようになる。 表現が生きがいとなるような心のよりどころとなる。 写実的傾向を強めたり、ロマンチズムの傾向に進むなど自分の表現を確立していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境について、安らぎや自然との共生などの視点からデザインする。 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 自分の価値意識をもつて批評し合い、よさや美しさを味わう。 日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を知り、日本美術の文化と伝統に関心をもつ。 諸外国の作品にふれ、美術を通して国際理解を深める。 現代や文化遺産的デザインに触れ、自己の美意識や美的選択能力を高める。 <p>高校 芸術 美術1</p> <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったこと、自己の考え、夢や想像などを基に主題の生成ができる。 機能美、楽しさを考え、造形要素を理解し、デザインをする。 映像メディアの特質、視覚的伝達効果を考えた表現をする。 <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活や自然、美術との関連づけて鑑賞する。 日本の美術の歴史と表現の特質をたむ。 映像メディア表現の特質を理解し、それを活用し交流する。 <p>工芸1</p> <p>表現</p> <p>1 工芸制作</p> <p>自然や身近な生活、使うものの心情、夢などを基にした心豊かな発想、用と美、日本の伝統的表現を生かした構想</p> <p>制作方法の理解と過程における吟味、創意工夫</p> <p>2 プロダクト制作</p> <p>社会生活や身近な環境を心豊かにする発想</p> <p>用・機能・生産性を考え構想</p> <p>鑑賞</p> <p>工芸作品の良さや美しさ、作者の心情、意図と表現の工夫、生活の中に生かされている工芸、作品に見る美意識や手作りのよさに気づく。</p> <p>日本の工芸の歴史と表現の特質を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のこだわり、表現方法を確実に確立できるように支援をする。 好きな作家や作品について友人と語り合うなどの芸術論を戦わせる場の設定をする。 音楽、文学、演劇などの絶対的視野で芸術を考えるよう支援する。 自己主張ができ、自分流が楽しむことができる教材を与える。 作家の生き方に共鳴できるなどの多様な鑑賞活動を取り入れる。 学習したことを生涯追求したくなるような学習内容の工夫をする。 日常生活している生活用品について、自分の感性で用と美の観点で見つめ直すような工夫を取り入れる。 職人の心意気・技が自分なりに実感できる学習内容を工夫する。 自分が美術館の学芸員や美術出版社の編集長になったつもりで、美術展の企画や画集づくりの企画をさせるなどの鑑賞学習を取り入れる。 人間の手でできない、映像メディアだから表現できる本物の写真・コンピュータグラフィックなどの学習を取り入れる。 芸術家の生き様や考えが紹介されたり、自由に活用できる場づくりをする。
16 前期				
17				
18				

参考文献 開隆堂出版 実践造形教育大系4 「子どもの発達と造形表現」大橋晴也著